

1250 年遷都祭稚児行列

昭和 35 年 3 月 10 日

写真提供：谷井孝次氏



桜山社

『中日ドラゴンズを哲学する』 福吉勝男著 データを越えた野球の“楽しさ” (令和 2 年 (2020) 3 月 20 日発行)

著者の中日ファンである原点。終戦後間もない 1954 年 (昭和 29 年) にドラゴンズのスプリングキャンプがおこなわれた若草山麓の奈良市営の春日野野球場 (奈良市雑司町)。



天知俊一 (1954 年優勝・日本一)、与那嶺要 (1974 年優勝)
近藤貞雄 (1982 年優勝)、星野仙一 (1988 年、1999 年優勝)
落合博満 (2004 年優勝、2007 年 53 年ぶりの日本一他)
杉下茂の「魔球」、岩瀬仁紀の「13 球」……。
昭和・平成から令和へと語り継ぎたい名場面。
ファンが愛した名監督、名選手たち。

野球はもっともっと楽しい!

定価 (本体 1,400 円 + 税)

小学生の頃から
野球少年で、
プロ野球を、そして
ドラゴンズを 70 年に
わたって愛してきた
哲学者が
ファン目線で書き下ろした
ドラゴンズ論。



奈良市営の春日野野球場

撮影：谷井孝次氏

奈良市営の春日野野球場

終戦後間もない 1954 (昭和 29) 年に、ドラゴンズのスプリングキャンプが行われた若草山麓の球場 (奈良市雑司町)。球場には四角い小屋程度の建物があり、選手がトレーニングに励んでいた。杉下投手をはじめ、西沢一塁手、児玉三塁手、杉山外野手、本多外野手ら選手のすぐ近くまで見学に行くことができ、ファンとの距離が近かった。写真は 1960 (昭和 35) 年 3 月、奈良遷都 1250 年祭で撮影されたもので、稚児行列が同球場の横を通っている。